



諏訪湖通信90号

令和7年12月22日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



漁業振興WGについて

漁業振興を検討するワーキンググループを12月1日(月)に諏訪合同庁舎で開催しました。前回開催時に参加者から課題とされた「カワウなど魚食性鳥類の対策」をテーマに、関係機関・団体及び外部識者として県内水面漁場管理委員会会长の信州大学平林教授が参加しました。信州大学笠原助教から、諏訪湖に生息している希少種「ヨシゴイ」「ササゴイ」の現状、カワウの時期ごとの魚類の捕食状況に加え、個体群管理の必要性など報告をいただきました。被害軽減策として、カワウ忌避バンドの効果検証を水産試験場諏訪支場から、ドローンを活用したレーザー照射の実証をNTT東日本から報告していただきました。平林教授から、実証試験の検証は関係者でもっと議論が必要なこと、カワウの飛来が年毎に増減している要因をしっかり分析する必要があるなど、貴重な助言をいただきましたので、次回、テーマをさらに絞り込んで、踏み込んだ検討が必要と感じました。

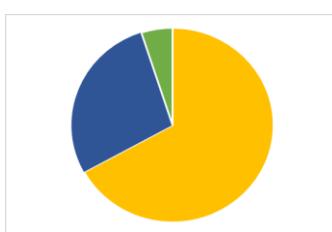
(消波堤で休んでいるカワウ) (笠原助教からの報告)



諏訪湖の水辺アクティビティWGについて

諏訪湖創生ビジョンでは目指す姿の一つとして『泳ぎたくなる諏訪湖』をテーマに掲げており、本年度より水辺アクティビティのWGを立ち上げました。これを受け、11月4日（火）に湖周市町担当者、水辺アクティビティ事業者、観光事業関係者を交えてWGを開催しました。8月3日に実施した諏訪湖の水辺アクティビティ推進事業に関する報告後に各所からの取り組みや計画を発表していただきました。なお、本WGを通じて、以下を共有することができました。

- ・イベント後のアンケート結果から、諏訪湖で遊ぶこと自体の満足度は高く、関心も高いことが伺えた。
 - ・一方で、こうした活動がすぐに「泳ぎたい」という行動に直結するわけではないため、認識の変化につながる取り組みを継続することが重要。
 - ・活動を続けることで諏訪湖への親水意識が期待できるため、形にとらわれずに関係各者と協力して進めていく。



Q. このイベントを通じて、諏訪湖の水辺に対する親しみが深まりましたか？

- とても感じた : 67%
 - ある程度感じた : 28%
 - どちらでもない : 5%

イベントを通じ、約95%の参加者に諏訪湖の水辺で遊ぶことに対して親しみを感じていただけた結果になりました。

政府の東京↔京都の幹線鉄道の建設は中山道に沿った計画で進んだ 中央本線鉄道建設 その1

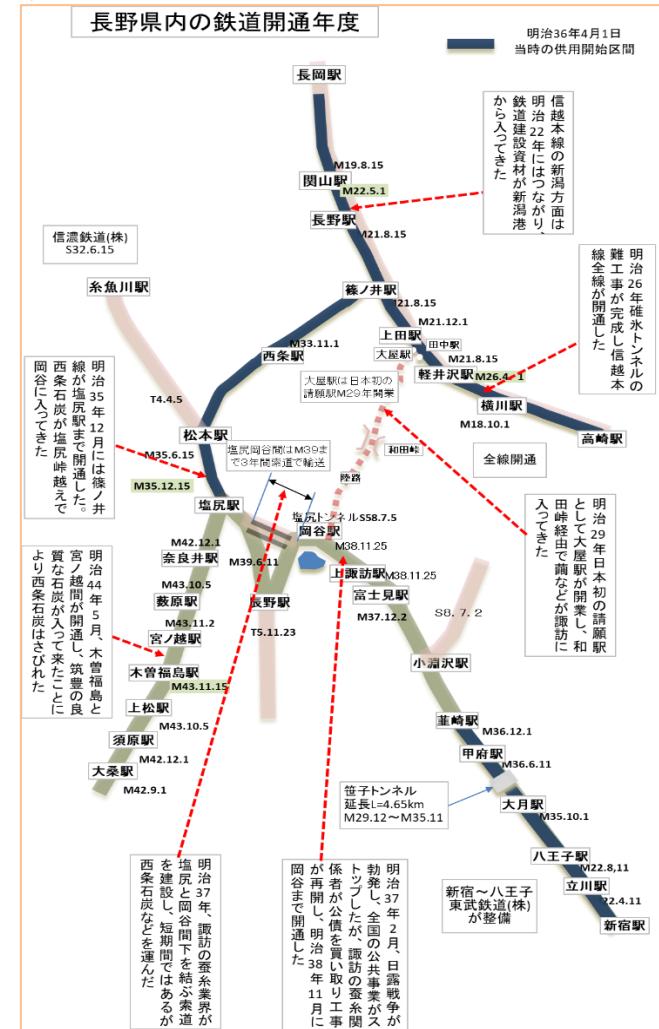
11月23日(日)に中央本線青柳⇒岡谷駅間開業から120周年を記念したイベント「すわ湖鉄道フェスタ2025」が行われました。

臨時特急が長野→茅野駅間で運行され、鉄道模型の展示や走行体験等行われ、各駅には多くのファンや親子連れが訪れて鉄道網誕生の節目を祝い、歴史に思いを馳せました。

■いろいろなドラマがあった鉄道建設

- ①明治初期の東京と京都を結ぶ鉄道建設 海岸線に沿った鉄道は、敵国に狙われやすいため、山中の中山道沿いに明治16年から建設を開始。しかし、山岳地で地形的に困難であることがわかり、明治19年に東海道線に変更。
 - ②明治25年鉄道敷設法公布 激しい誘致合戦の結果、八王子から甲府を経て諏訪から木曽に出る計画に決定。
 - ③上諏訪駅の位置決定 諏訪地域で最も時間がかかり明治36年に現在の位置に決定。建設予定地にあった高島小学校は手長丘に移転。なお、排煙ススなどの被害を理由に、近くを通ることに反対する人が多かった。
 - ④明治37年2月に日露戦争勃発 全国の公共事業が中断となるなど、予定通りの開業が難しいことになった。

(次号につづく)



明治36年4月時点の長野県内の鉄道建設状況

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901